

日本労働年鑑 第57集 1987年版
The Labour Year Book of Japan 1987

第三部 労働組合の組織と運動

II 労働組合全国組織の動向

4 統一労組懇

2 機関会議

総会

最高の議決機関は総会である。総会は中央単産代表および地方統一労組懇代表ならびに代表委員で構成され、年一回七月に年次総会を開くほか、必要に応じ臨時総会を開く(「運営要綱」第四項)ことになっている。臨時総会は八〇年代に入って毎年一二月に開かれ、翌年の春闘方針の決定が主要議題になっている。

なお、総会の代議員の場合、中央単産代表と地方統一労組懇代表は、発言権、採決権などまったく同等の代議員資格を有しているのが特徴的である。

全国代表者会議

全国代表者会議は、総会からつぎの総会までの間、重要事項について、統一労組懇の方針について意思統一をおこなうもので、中央単産および地方統一労組懇の代表ならびに代表委員によって構成される。

単産代表者会議

単産代表者会議は、中央単産代表により構成され、必要に応じて開催され、意思統一をはかるものである。

代表委員会

代表委員会は、年次総会で選出された代表委員で構成し、統一労組懇の一般業務、財政、その他日常活動全般について、総会および全国代表者会議にたいして責任をもつ。とりわけ代表委員会の互選により選任された常任代表委員と事務局長が、日常業務の遂行にあたるものとして重要なウエイトを占めている。

諸会議の全会一致制

なお以上の初会議は、全会一致をもって運営される。これは、統一労組懇が名称のとおり、懇談会的性格をもつ運動体であることにもとづくものと思われる。

日本労働年鑑 第57集 1987年版

発行 1987年6月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1987年版(第57集)【目次】 次のページ→ ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
